

平成29年度 第2回 奈良県食育推進会議

日 時：平成30年2月8日（木） 午前10時00分～正午

場 所：奈良商工会議所 4階 中ホール（奈良市登大路町36-2）

出席者：尾川会長代理、上田委員、内山委員、浦辻委員、鈴木委員、寺田委員、仲浦委員、
松中委員、水野委員、横地委員、若杉委員

議題（1） 第3期奈良県食育推進計画（案）について

議題（2） 平成29年度の取組概要について

議題（3） その他

○ 委員意見

（第3期奈良県食育推進計画（案）について）

- ・ 指標「朝食を毎日食べていないと回答する児童・生徒の割合」について、目標が全国平均以下は全国と争っているように感じる。全国平均が望ましいわけではない。国の表現に合わせるのも、一つの方法かと思う。
→ 各家庭いろいろな問題があるので0%は厳しい目標になると思う。県の教育振興大綱に同様の指標があるので、目標値は合わせに行ってはどうか。
- ・ 指標「学校給食における地場産物の活用と県内製造品を活用している割合」について、実際どういうところから手をつけていいものかという意見を耳にする。
- ・ 指標で、新規就農者数「増加」とあるが、一人前の農家を育てるのは大変難しいところがある。
- ・ 歯科口腔保健に関して、母子に関しては数値目標が設定されているが、歯周病については設定がないので同様に設定してほしい。
- ・ 食育に関する取組の成果は見えにくいのが実情。
- ・ 「奈良の伝統食」から一步踏み込んで、「野菜を使った伝統食」を作れば、生産者、消費者、学校給食がトータルに繋がって県産農産物のアピールがしやすくなるのではないか。
- ・ 保育園での取り組みとして、次世代の健全な食生活形成のための食事として、農作物を育て、調理して食べる体験をしている。調理体験の日は子ども達が皆楽しみにしている。
- ・ 全国学校給食甲子園で準優勝を取った宇陀市のメニューに続くよう、他の市町村、学校にも献立充実に向けた研究を勧めている。今後も学校給食の食教育の手本となるよう給食日より等の充実でさらに努力していきたい。
- ・ 以前、食推の活動で高等学校に食育指導で入りたいと交渉したところ不要と断られてショックだったが、「小・中・高等学校における食育の指導・体制の充実」が計画の施策に入ったので、改めて交渉してみようと思う。
→ 高校の家庭科は1年生の時に週2時間だけで、その中で衣・食・住の他、消費者教育、環境教育も入るので、全部こなすだけで大変な現状。学校へは家庭科教諭より校長にアプローチする方がよい。

- ・ 栄養士会の地域活動として短大生を対象とした事業を行っているが、学生は本当に調理が出来ないので、重点的に行う必要がある。
- ・ 次世代に農業体験をしてもらうことは、食育で大事なことだと思う。ただし、農業体験にあたっては、植え付けと収穫だけでなく、草刈り等途中過程の体験も必要。
- ・ 全国学校給食週間で、県教育長が学校を訪問して子供たちと一緒に給食を食べるという事業を実施した。メニューに県産食材が多く活用され、テレビ報道等されたので、このような取組を他の市町村に伝達したい。
- ・ P T Aとしては各家庭に働きかけていくことが大事と思う。

(平成29年度の取組概要について)

特になし

(その他)

- ・ 奈良としてPRしていくものが具体的に定まるとよい。
- ・ 給食の原材料費が高騰した時に対応できるような基金的な継続したシステムがあるとよい。
- ・ 地域包括支援センターの中に栄養士を入れていただきたい。